

臨床研究に関する情報

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、患者さんの診療情報を用いて行います。このような研究は、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針(令和3年文部科学省・厚生労働省・経済産業省告示第1号、令和4年3月10日一部改正)」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の連絡先へご照会ください。

[研究課題名] 肺癌におけるPD-L1発現別の免疫チェックポイント阻害剤を含む治療の後方視的研究

[研究責任者名・所属] 庄司 哲明 北海道大学病院 呼吸器内科 助教

[研究機関名・長の氏名] 北海道大学病院 渥美 達也

[研究の目的] 近年、あらたな癌薬物療法として免疫チェックポイント阻害剤が注目されています。免疫チェックポイント阻害剤の中でも抗PD-1/PD-L1抗体薬が特に普及しつつあります。癌細胞はその表面に発現するPD-L1というタンパク質で患者のリンパ球の活性を低下させることで免疫系からの排除を免れています。そこで抗PD-1/PD-L1抗体薬を投与することで癌細胞に対する免疫系細胞による排除を活性化し、抗腫瘍効果が得られると考えられています。

しかし、抗PD-1/PD-L1抗体薬は比較的あたらしい薬剤であり、その性質が十分に解明されているとはいえません。特に腫瘍細胞におけるPD-L1の発現状況と抗PD-1/PD-L1抗体薬の有効性・安全性の関連は重要なテーマです。また、PD-L1の発現状況と従来型の抗腫瘍薬との関連を明らかにすることも臨床上、重要な課題です。

そこで本研究では、北海道大学病院 呼吸器内科にて全身薬物療法が施行された肺癌の患者さんを対象とし、PD-L1の発現と使用された薬物療法の治療効果との関係を検討して患者さん毎に最適な薬物療法を選択するためのデータを収集・解析することを目的とします。

[研究の方法]

対象となる患者さん

2013年8月1日から2024年7月31日までの間に、北海道大学病院 呼吸器内科で全身薬物療法を受けた肺癌患者さん

利用する情報：2024年12月31日までの情報を利用します

年齢、性別、全身状態、身長、体重、喫煙歴、既往歴、内服歴、検査結果（血液検査結果、画像（CT、MRI、PET-CT、心臓エコー、心電図）検査結果、病理診断結果）、全身薬物療法に関する情報、治療状況（効果、有害事象等）、転帰

[研究実施期間]

実施許可日～2025年6月30日（登録期間：実施許可日～2024年7月31日）

この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

研究に利用する患者さんの情報に関しては、お名前、住所など、患者さん個人を特定できる情報は削除して管理いたします。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる情報は削除して利用いたします。

* 上記の研究に情報を利用することをご了解いただけない場合は以下にご連絡ください。

[連絡先・相談窓口]

北海道大学病院 呼吸器内科

担当医師：庄司 哲明

住所：北海道札幌市北区北14条西5丁目

電話：011-716-1161（代表） FAX 011-706-7899